



GRACE
DESIGN



MOXi

2 Channel Instrument Preamplifier / EQ / DI

日本語マニュアル

(株)アンブレラカンパニー

[https:// umbrella-company.jp](https://umbrella-company.jp)

* この取扱説明書は株式会社アンブレラカンパニーが正規に販売する製品専用のオリジナル制作物です。

無断での利用、配布、複製などを固く禁じます。

Rev. A 06/10/2025

1 ようこそ

MOXi は、あなたの音を圧倒的に良くし、あなたの演奏をより楽にして、そして長期にわたって信頼できる相棒になります。

あなたはおそらく、すでに何年もかけて自分の技を磨いてきたことでしょう。

もしかすると、ジェット機で世界をツアーしているかもしれませんし、自転車に乗って地元のパブで演奏しているかもしれません。

あなたには、家族のような友人やバンド仲間がいます。

そして、その友人の中には（おそらく最も大切な人たちは）、木、スチール、骨、弦でできている者たちもいます。

MOXi は、これまであなたが操作してきた中で複雑な部類に入る機材ではありませんが、いくつかの設定オプションがあるため、この取扱説明書を良くお読みになり、詳細を理解することをお勧めします。

その後、MOXi が直感的でパワフルで、とても使いやすいことにすぐに気づくはずです。

これからは、どこで演奏するときにもステージのフロアーを見下ろすと、あなたの MOXi がそこにあるでしょう！

2 安全の為に

注意:



この記号は、本機および本マニュアル内に記載されており、重要な指示を示します。

この機器を操作する前に、このマニュアルをよくお読みください。

Grace Design MOXi にはユーザーがサービスできる部品は含まれていません。修理およびアップグレード情報については 必ず弊社までお問い合わせください。

3 機能概要

- オープンで音楽的な表現力をもつ楽器用プリアンプ
- MIX または A/B 出力オプションを備えた2chオーディオパス
- 個別の端子でセンド/リターンを備えたモノラルFXループ
- プロフェッショナルレベルのヘッドルームおよびラインドライブ能力を確保するための高品位電源とグラウンド設計
- 高品質、低歪み、完全シールドトランスを備えたグラウンド絶縁DI出力
- シグナルパスに使用された超高精度0.5%薄膜抵抗器
- 高耐久メタルブッシングを備えた超堅牢な1/4インチコネクタ
- 両チャンネルに搭載された強力かつ独立したEQ（高域および低域のシェルビング、スィープ可能な中域）
- 両チャンネルに搭載されたON/OFF可能な75Hzハイパスフィルター
- 複数の楽器構成や異なるピックアップの切り替えに利用できるA/Bフットスイッチ
- FXセンドを除くすべての出力をミュート可能なMute/Tuneフットスイッチ
- 最大10dBレベル調整可能なブースト・フットスイッチ
- ch1のブーストを無効化できるリアパネルDIPスイッチ
- 専用のラインレベル・ステージアンプ出力
- 両1/4インチ入力に適応可能な6Vマイクバイアス電源
- 各チャンネル個別の位相反転スイッチ
- 両チャンネルにおける固定1M Ω 入力インピーダンス
- 9VDC（センターマイナス）、200mA電源入力
- 付属電源：ユニバーサルAC入力、低ノイズ9V、500mA、センターマイナス出力
- 長く幸せなロードライフにも耐える強靱なデザイン
- メイド・イン・U.S.A

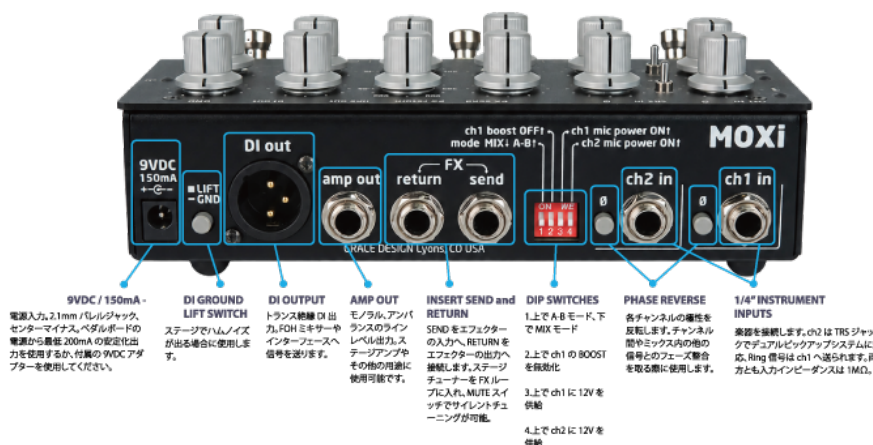
4-5 パネルコントロール

MOXi Quick Guide

Top



Back



GRACE
DESIGN

6 接続端子

6.1 1/4" CH1 & CH2 楽器入力

これらの入力には楽器用ピックアップ、エレクトレットマイク、またはラインソースを MOXi に接続するためのものです。

ch1 コネクタは、標準的な 1/4 インチジャックで、チップが信号、スリーブがグラウンドに配線されています。

ch2 コネクタは、通常の TS 楽器用ケーブル **または** 単一の TRS 1/4 インチケーブル 上でデュアルソースピックアップシステムからの 2 つの異なる信号を受け入れることができます。

このジャックは、チップが信号、リングが信号 (ch1 にノーマル接続)、スリーブがグラウンドに配線されています。(詳細は第 8 章を参照)

6.2 インサート・センド & リターン (FX ループ)

これらのコネクタは、MOXi に外部エフェクトやチューナーを接続するためのバッファード・アンバランスのインサートポイント（ブースト前）です。これにより、モノラルの外部信号処理を信号経路に直列で配置しながら、MOXi のすべての出力機能を利用できます。

各コネクタは 1/4" TS ジャックで、チップが信号、スリーブがグラウンドに配線されています。チューナーへの信号送出的み行いたい場合は、SEND をチューナーの入力に接続し、RETURN を未接続のままにしてください。こうすることで、MOXi がミュート状態でもチューナーを常にアクティブにできます。FX ペダルが過大入力となる場合は、内部ジャンパー #10 により -6dB のインサートセンド PAD を有効にすることも可能です。

6.3 AMP アウト

この出力は、ステージアンプなど、追加の信号が必要な他の場所へ送るための、アンバランス (トランスアイソレートされていない) 出力です。MUTE フットスイッチが有効になると、この出力はミュートされます。内部ジャンパー #8 により、ミュートされない設定に変更することもできます。

6.4 DI アウト

この出力は、PA コンソール、モニターコンソール、または任意のミキサーやインターフェイスへ信号を送るための、バランスかつトランスアイソレートされた XLR 出力です。XLR のピン配列は、ピン 2 がホット (正)、ピン 3 がコールド (負)、ピン 1 がグラウンドです。出力レベルは -18dB で、内部ジャンパー #11 により -6dB に調整することも可能です。

6.5 9VDC 電源入力

センターマイナス仕様の標準的な 2.1mm 電源アダプター用ジャックです。

使用する電源は、200mA 以上 を供給できる必要があります。付属の電源アダプターを使用するか、使用する電源が入力要件を満たしていることを確認してください。不適切な DC 電源を使用すると、パフォーマンスの低下を招き、正しく動作しなくなる恐れがあります。

7 操作

7.1 プリアンプの強靱性について

MOXi は箱から出したときにはピカピカですが、ご安心ください。ステージ上で起こり得るあらゆる過酷な使用に耐えられるように作られています。すべてのボットは金属シャフトを採用し、トップパネルにしっかりと頑丈に固定されています。すべての 1/4" ジャックには頑丈な金属製ブッシングが使用されます！スチールとアルミニウム製のシャーシは、ラフな扱いにも十分すぎるほどに耐える設計です。MOXi は当社の他のペダル製品と同様に、スタジオグレードのオーディオハードウェアとして設計されていると

同時にステージでの使用に十分な堅牢性を備えています。

注意: MOXi をペダルボードにベルクロ®で固定する場合、底面のゴム足は取り外し可能です。

7.2 楽器/ライン入力について

これらは、楽器を MOXi に接続する際に使用する入力です。市場にはさまざまな種類のピックアップがあります。たとえば、エレクトリックベースのアクティブ回路、パッシブのブリッジプレート用のトランスデューサー、コンタクトマイク、サウンドホール用のマグネティックPU、クリップオンマイクなどです。MOXi はそれらの全てと相性よく動作するように設計されています。

◎デュアルソース PU システムを 1 本の TRS ケーブルで使用方法

前述の通り、ch2 入力は、デュアルソースピックアップ・システムからの 2 つの異なる信号を、単一の TRS 1/4" ケーブルで受けることができます。コネクタは標準的な TRS 1/4" ジャックで、配線は以下の通りです。

- チップ信号が ch2 入力へ
- リング信号が ch1 入力へ
- スリーブがグラウンド

この機能により、デュアルソースピックアップ・システムの本機での使用がとても便利になります。楽器側が正しく TRS 出力ジャックで配線されていれば、標準的な TRS ケーブルを使って両方のソースを MOXi に接続し、それぞれの信号を EQ およびブレンドできます。このようなアコースティック・ピックアップ・システムの音響的なサウンドは極めて優れています。

◎6V 電源について

ch1 および ch2 の両方の楽器入力は、エレクトレット・コンデンサーマイクと一緒に使用できます。これらは、楽器の内外に小型ラベリアスタイルのマイクを取り付ける用途で一般的に使われます。通常、これらのマイクには小型の内蔵プリアンプがあり、動作には小電圧が必要です。そのため、MOXi はこれらの入力両方に 6V のマイクバイアス電源を供給できます。この機能はリアパネルの DIP スイッチ #3 および #4 により有効化されます。この 6V 電源は各チャンネル入力ジャックのチップに供給されます。

注意: 有効時には、6V 回路によって入力インピーダンスが上昇し、パッシブピックアップ (K&K など) を接続した際に音が大きく変わる可能性があります。使用しない場合は、このスイッチを必ず OFF にし

てください。

◎ フェイズ・リバーズ（位相反転）

ch1 および ch2 にはそれぞれフェーズ・リバーズ（位相反転）スイッチがあり、各 1/4" 入力ジャックの横に配置されています。これらのスイッチを使って、各チャンネルの極性を切り替えることが可能です。正しい音になる設定を見つけるために、段階的に試してみてください。同じ楽器上で 2 つのソースをブレンドする場合、一方またはもう一方のソースの極性を反転させると最適な音になることがあります。2 つの異なる楽器を MOXi で切り替えて使用する場合、相対的な極性を気にする必要はおそらくありません。フェーズの関係は非常に複雑で、ずれが生じるとブレンドされた信号の低音域が強調されたり減衰したりします。音がこもったり、空洞のように薄く聞こえたり、あるいは単に奇妙に感じることもあります。ここでの基本ルールは、「自分にとって正しく聞こえる設定が正解」です。

ミックス内の他の信号とのフェーズ整合性を改善するため、フロントオブハウスやモニターエンジニアからフェーズの切り替えを依頼される場合もあります。少なくとも、これらのコントロールの使い方を知り、実際に自分の楽器で音を確認できることは大切です。

7.3 フィルターと EQ

MOXi には、各チャンネルに同一で完全に独立した EQ コントロールが搭載されています。もしこれまであまり EQ やフィルターを使ったことがない場合は、基本的な概要をここで説明しますが、このプロセスの理論全体をここで扱うことはできませんので、以下の補足資料を参照することをおすすめします。

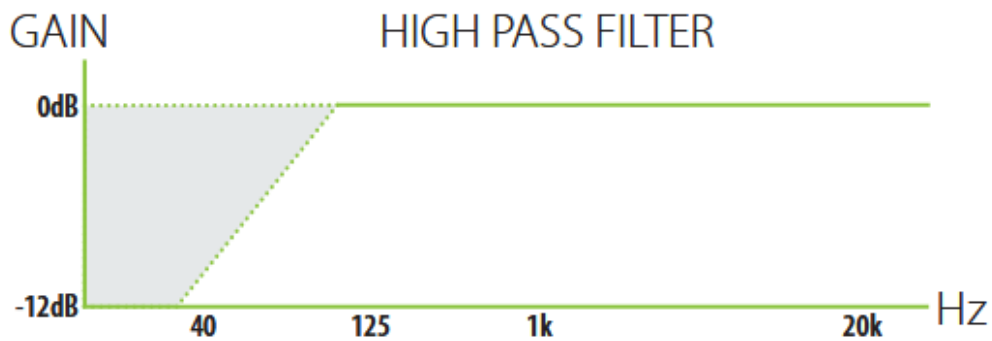
<http://en.wikipedia.org/wiki/Equalization>

すべてのオーディオ処理技術に共通しますが、知識が増えるほど、より良い音を得ることができます。

◎ HPF（ハイパスフィルター）

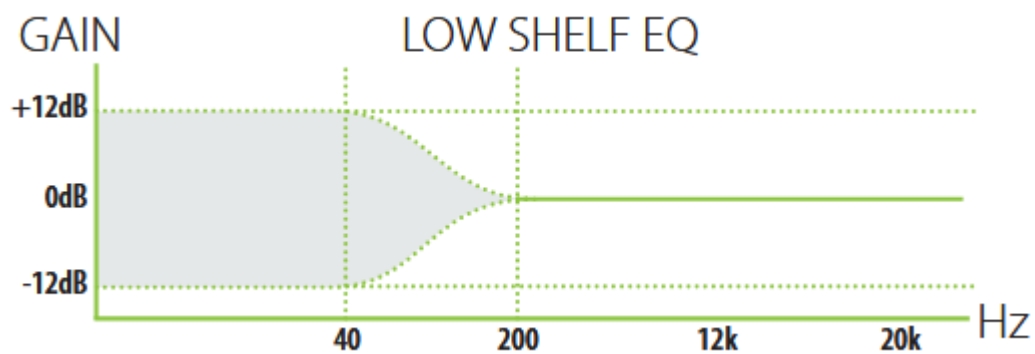
このトグルスイッチは、固定 75Hz の HPF（ハイパスフィルター）を有効にします。

ハイパスフィルターは、設定された周波数より上の信号成分のみを出力に通過させます。このフィルターは、12dB/オクターブのスロープを持ち、通過帯域のフラットネスとタイムドメイン応答を最適化するためにThomson – Butterworth特性を採用した高性能なものです。



◎ LOW

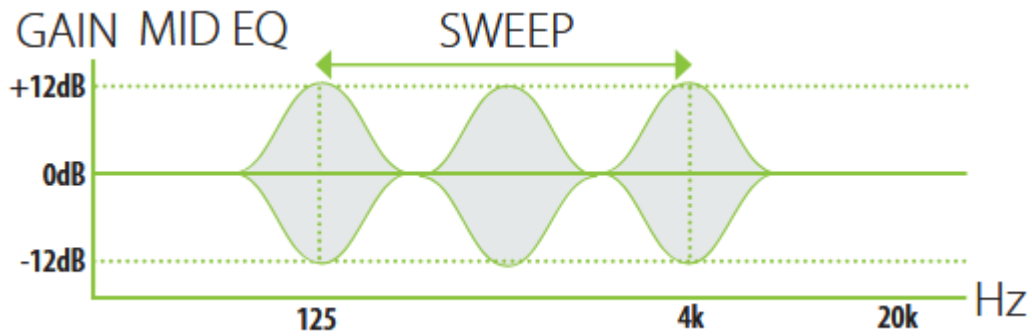
MOXi プリアンプの Low コントロールは、250Hz のコーナー周波数に固定されており、ゲインレンジは -12dB から +12dB です。これは固定シェルフタイプのコントロールで、125Hz 以下のすべての帯域がブーストまたはカットされます。このコントロールは低音域のブーストおよびカットに使用します。



◎ MID

MOXi のイコライザーのミッドレンジ・セクションは、スweep可能なベルフィルターです。これにより、固定 Q ファクター 2 でミッドレンジのゲインと周波数をコントロールできます。これらのコントロールの範囲は以下の通りです。

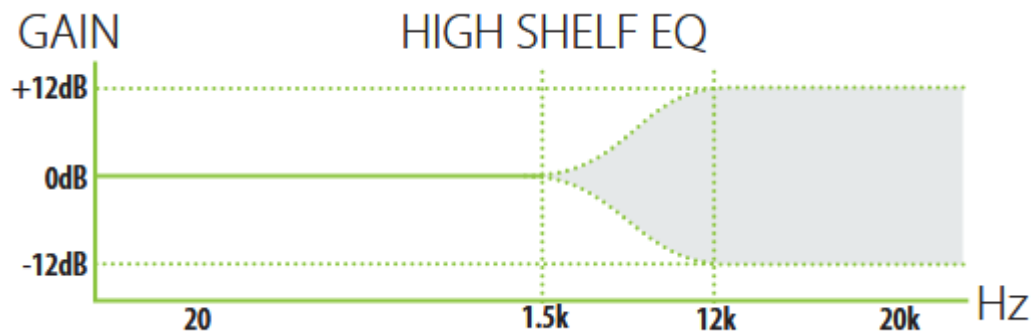
- ・ゲイン = $\pm 12\text{dB}$
- ・周波数レンジ = 125Hz - 4kHz



◎ HIGH

MOXi プリアンプの High コントロールは、1.5kHz のコーナー周波数に設定されており、ゲインレンジは -12dB から +12dB です。これは固定シェルフタイプのコントロールで、1.5kHz 以上のすべての帯域がブーストまたはカットされます。

簡単に言えば、これはトレブルコントロールです。例えば、バンジョーの音が明るすぎと感じた場合は、このノブを反時計回りに回してください。ギターにもう少しアタック感が欲しい場合は、時計回りに回してください。



7.4 アウトプット・コントロールと設定

◎ Boost

このノブは、「BOOST」フットスイッチを有効にした際に信号のブースト量を設定します。ノブを最小（反時計回りいっぱい）にするとブーストはゼロ、最大（時計回りいっぱい）にすると +10dB のブーストが加わります。この回路はグローバルで、両チャンネルの出力にブーストが適用されます。

ただし、リアパネルの DIP スイッチ #2 を「CHANNEL 1 BOOST OFF」に設定することで、ch1 だけブーストを無効にすることができます。これは、ch1 にマイクやフィードバックを起こしやすいピックアップを使用しており、ブーストをかけたくない場合にたいへん便利です。

◎ Mix

このコントロールは、ch1 と ch2 のミックス（またはブレンド）を調整します。

このコントロールを使用する前に、プリアンプが MIX モードか A/B モードに設定されているかを確認することが重要です。この設定はリアパネルの DIP スイッチ #1 で切り替えます。スイッチを MIX モード（下側の位置）に設定すると、このコントロールは単純なミキサーとして機能します。ノブを反時計回りいっぱいに回すと出力は 100% ch1、時計回りいっぱいに回すと 100% ch2 になります。ノブを中央の 12 時方向にすると、出力は ch1 と ch2 が 50/50 の割合でブレンドされます。

プリアンプがリアサイドパネルの DIP スイッチ #1 により A/B モードに設定されている場合でも、このコントロールは 2 チャンネルのレベルバランスに影響します。A/B モードで使用する際は、このコントロールを 12 時方向に設定しておくことを推奨します。

7.5 フットスイッチ・コントロール

◎ Blend-A/B

これは、MOXi の一番左側にあるフットスイッチです。

リアパネルの DIP スイッチ #1 でユニットがブレンドモードに設定されている場合、このスイッチは何も機能せず、両隣の LED は常に点灯します。

ユニットが A/B モードに設定されている場合、このスイッチは ch1 と ch2 の切り替えに使用され、対応するアンバー色の LED が点灯・消灯します。この切り替えは一方のみが選ばれる動作になっており、ch1 を選択すると ch2 はミュートされ、ch2 を選択すると ch1 がミュートされます。

◎ Boost

このスイッチは、上段の「boost」ノブで設定したレベルでブースト回路を有効にします。スイッチを踏んでブーストが有効になるとLED がグリーンに点灯します。

◎ Mute/Tune

このスイッチは、FX センドアウトを除くすべての MOXi 出力（DI 出力および AMP 出力）をミュートします。これにより、ステージ上で、素早く簡単にステージ信号をカットしてチューニングや楽器の抜き差しを行うことができます。MUTE / Tune が有効になると、隣の LED が赤く点灯します。

7.6 リアパネル・コントロール

◎ Phase Reverse

これら 2つのプッシュボタン式トグルスイッチは、各チャンネルのオーディオ信号の極性を反転させます。いずれかのチャンネルの極性を反転させたい場合は、トグルを押し込みます。極性反転を解除したい場合は、もう一度押して元の外側の位置に戻します。

◎ DIPスイッチ

これは 4 つの DIP スwitchのバンクで、さまざまなモードや設定を有効にするために使用します。

スイッチ 1 : MIX モードと A-B モードの切り替え

スイッチ 2 : ch1 のブースト回路の無効化

スイッチ 3 と 4 : 楽器入力での 6V マイクバイアス電源の有効化

DIP スwitchは少し調整が難しいですが、誤って切り替わることが少ないというメリットがあります。爪の端、ギターピック、または爪楊枝などを使い、プラスチック部分を強く押し込みすぎないように注意して切り替えを行ってください。

8 内部ジャンパの設定

MOXi のほとんどのコントロールは外側にあり簡単に調整できますが、必要に応じて内部ジャンパーで設定できる追加のオプションが 3 つあります。これらのオプションは以下の通りです。

1. **ジャンパー J8**: インサートチェーン内で MOXi が FX ペダルをオーバーロードしてしまう場合に、インサートセンドに -6dB PADを適応することが可能です。
2. **ジャンパー J10**: ミュートスイッチが有効になった際に AMP OUT ジャックをミュートしないように設定を変更できます。
3. **ジャンパー J11**: DI 出力レベルを調整し、出力を -18dB から -6dB に変更できます。

これらのジャンパーの位置は、「ジャンパー位置」図をご参照ください。

◎ ジャンパ設定方法

ドライバーの扱いに慣れていれば、ジャンパー設定の調整は問題なく行えます。ただし、暗いステージ上やツアーバンの中で行う作業ではありません。

シャーシを分解してジャンパーにアクセスする手順は以下の通りです。

1 重要：作業を始める前に、必ず MOXi を電源から外し、すべての楽器ケーブルを取り外してください。MOXi を清潔で平らな場所に置き、十分な明るさを確保してください。

2 #1 プラスドライバーを使い、アルミ製トップシャーシの前面下部外側および背面上部外側にある 4 本のシャーシネジを取り外します（図 1 参照）。



3 ユニットを自分の方に向けます。ゆっくり慎重にトップシャーシを持ち上げ、そのまま上方向へ開いて後方へ倒します。これにより、上部と下部の回路基板が見えるようになります（図 2 参照）。



figure 2

4 上部と下部の基板を接続しているリボンケーブルがあることに気づくはずですが。このケーブルやコネクタに負荷をかけないように、十分注意してください。

トップシャーシを優しく持ち上げ、図 3 に示すように、下部シャーシのすぐ後ろに立てかけることができます。



figure 3

5 次に、ジャンパー位置図を参照して、調整したいジャンパーを確認します。ジャンパーを動かす際は、ピンセットまたは指（図 4 参照）を使って、ヘッダーピンからそっと引き抜いてください。ジャンパーを移動させる際は、必ず図を再確認し、正しい位置に優しく押し込んで取り付けてください。

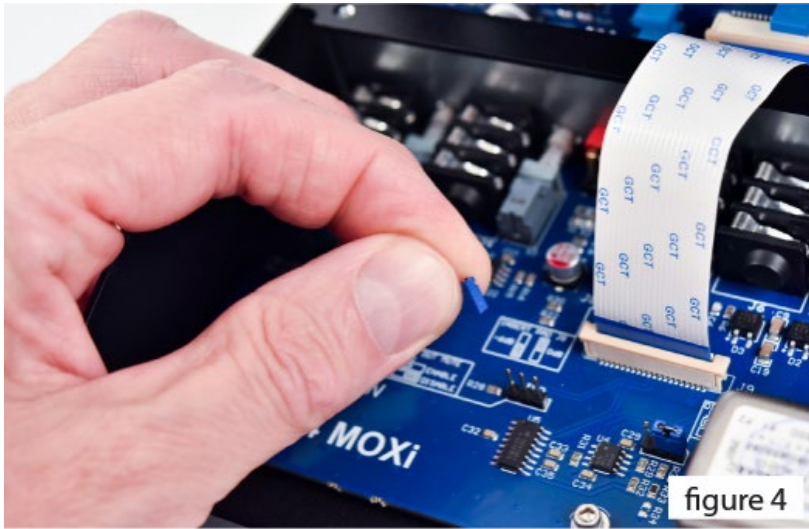
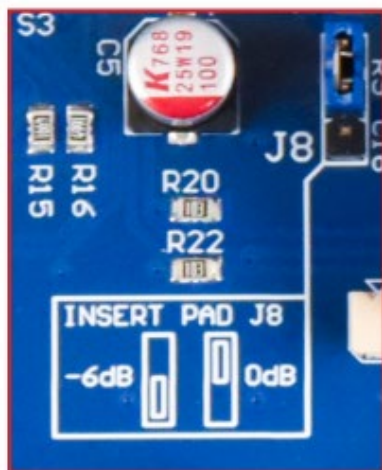
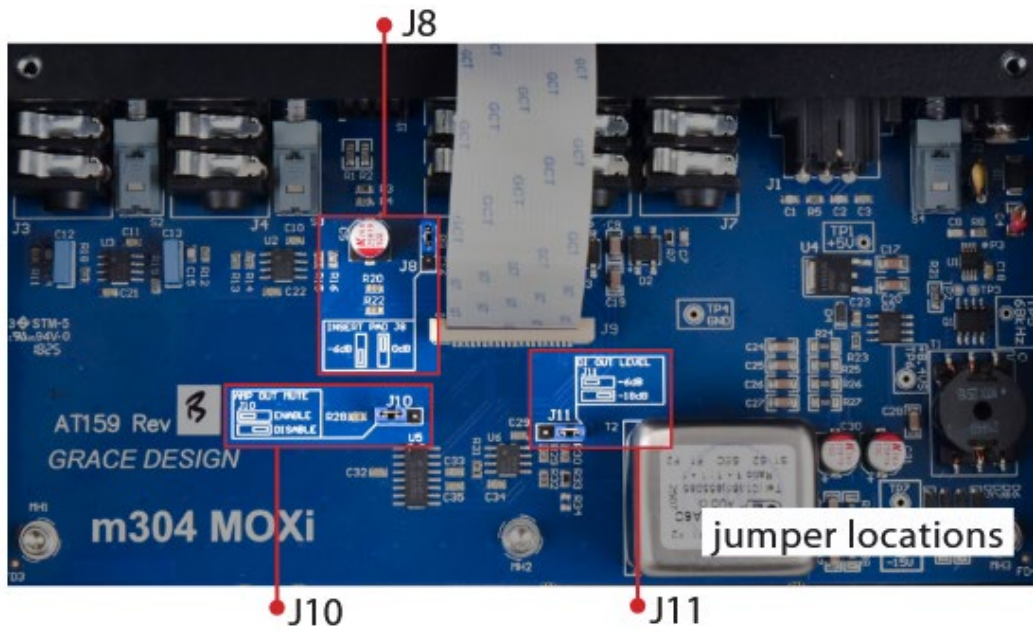


figure 4



6 J8 はインサートパッドを調整するジャンパーで、工場出荷時には「0dB」に設定されており、ジャンパーは中央と上側のピンに取り付けられています。

-6dB パッドを有効にする場合は、ジャンパーを中央と下側のピンに移動してください。



8 J11 は工場出荷時に -18dB の DI 出力レベルに設定されています。-6dB 出力レベルにする場合は、ジャンパーを中央と左側のピンに移動してください。

9 ジャンパーの調整が終わったら、内部に外れたジャンパーやその他の異物が残っていないことを確認してください。

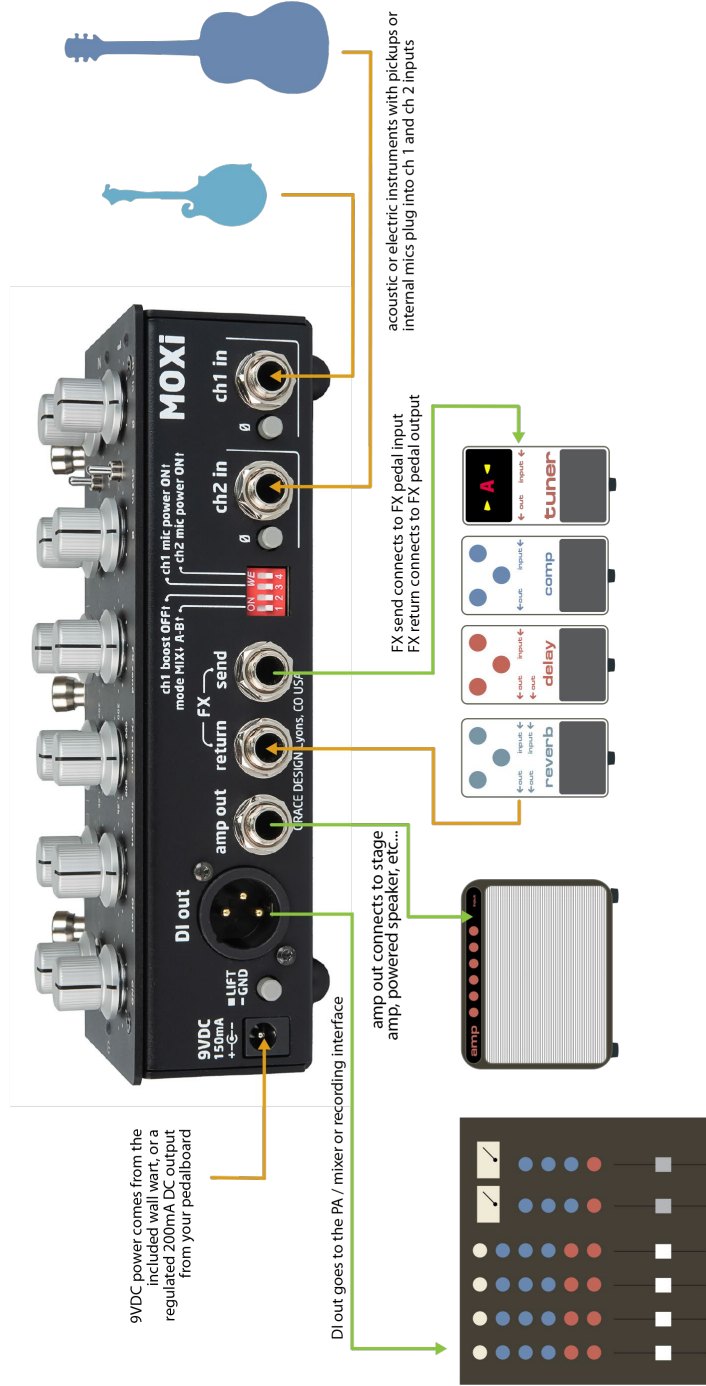
10 その後、リボンケーブルが自然に折りたたまれるように注意しながら、トップシャーシとボトムシャーシを慎重に組み直します。テンションがかかっていたり、正しく収まらない場合は、慎重に再度分解し、干渉している部分を確認してください。

11 組み立てが完了したら、4 本のネジを戻します。ネジはまっすぐに入れるよう注意し、必要であればトップパネルを前後に微調整して、穴が正確に揃うようにしてください。すべてのネジがスムーズにネジ穴に入り始めるまで、完全には締め付けないようにしてください。

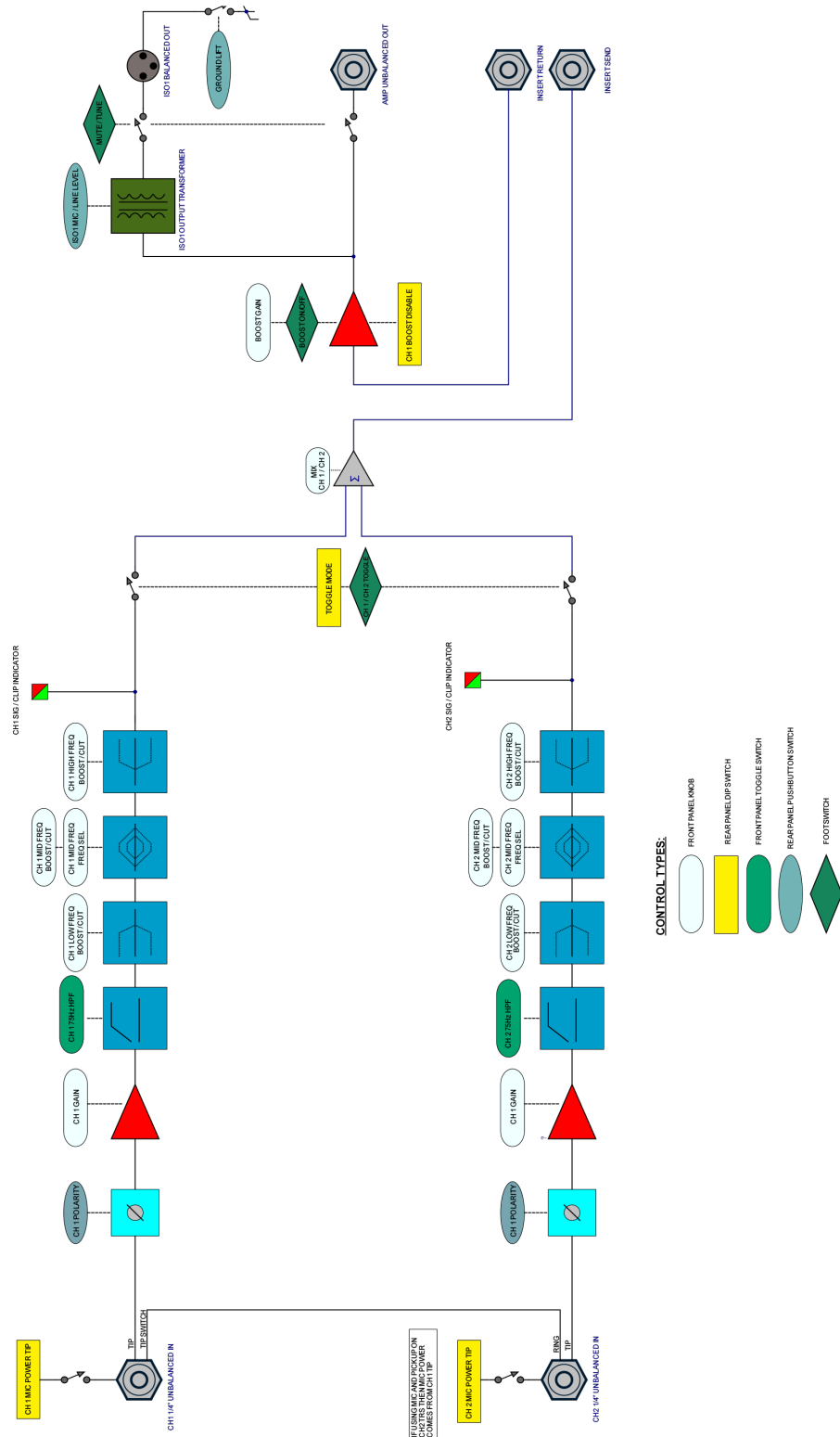
9 Connection Diagram

MOXi connections

Nothing too terribly complicated here - just the basics about how to plug stuff in and out of your preamp. If you aren't sure about how something works, please have another look at your owner's manual, check out our website - www.gracedesign.com - or feel free to call us, we are always glad to help out in any way we can. 1.303.823.8100, M-F, 9-5 MST



10 Block Diagram



11 Specifications

GAIN RANGE		
Ch 1 In, Amp Out, Boost 0dB		0dB to +38.5dB
Ch 1 In, Amp Out, Boost +10dB		+9.5dB to +48dB
Ch1 In, DI Out, Boost 0dB		-20dB to +18dB
Ch1 In, DI Out, Boost +10dB		-11dB to +28dB
Boost		0-10dB
THD+N 1kHz, 22Hz-22kHz BW (Amp Output)		
@ 0dB Gain Line out +10dBu		<-92dB
DI out -10.27dBu		<-76dB
@ 20dB Gain Line out +10dBu		<-89dB
DI out -10.27dBu		<-78dB
@ 40dB Gain Line out +10dBu		<-74dB
DI out -18.8dB		<-73dB
INTERMODULATION DISTORTION - SMPTE/DIN 4:1 7kHz/50Hz		
@ 40dB Gain Line out +10dBu		<0.040%
DI out -18.8dB		<0.070%
OUTPUT NOISE 20Hz-22kHz BW 50Ω source		
Minimum Gain, Amp Out		<-91dBu
Minimum Gain, DI Out		<-110dBu
Maximum Gain, Amp Out		<-65dBu
Maximum Gain, DI Out		<-87dBu
FREQUENCY RESPONSE (Ch1 or Ch2 Input to Amp Output)		
Ch1 or Ch2 Input @ 0dB Gain, -3dB		4Hz-148kHz
FREQUENCY RESPONSE (Ch1 or Ch2 Input to DI Output)		
Ch1 or Ch2 Input @ -20dB Gain, -3dB		6Hz – 51kHz
I/O IMPEDANCE		
Ch1 and Ch2 Input		1.0MΩ
Insert Input		20kΩ
Insert Output		300Ω
DI Outputs		150Ω
Line Output		150Ω
SIGNAL / PEAK LED METER Amp Out Levels		
Green threshold		-10dBu
Red threshold		+7dBu
MAXIMUM INPUT LEVEL		
Ch1 and Ch2 Input, minimum gain		+20dBu
Insert Return		+16dBu
MAXIMUM OUTPUT LEVEL - 100k Ohm load, 0.1% THD		
DI Outputs		+15dBu
Line Out		+21dBu
Insert Send (Pad Off)		+17dBu
Insert Send (Pad ON)		+11dBu
High Pass Filter		
High Pass Filter 75Hz		-3db @ 75Hz
EQ		
Gain		+/- 12dB
Low Frequency		250Hz Shelving
High Frequency		1.5kHz Shelving
Mid Frequency		125Hz-4kHz, Q=1
OUTPUT MUTE ATTENUATION		
DI Output		-98dB
Line Out		-95.5dB
POWER CONSUMPTION		
9VDC		1.1W 130mA
WEIGHT and DIMENSIONS		2.2lbs H2.5" x W7.1" x D4.4"